

(19) Japanese Patent Office

(11) Patent No. Sho55-54926

(43) Publication date: April 22, 1980

(54) Turbine polisher

(21) Patent Application No. Sho53-129096

(22) Application date: October 19, 1978

(72) Inventor: Nakazawa Satoichi, Kadoma city

(71) Applicant: Matsushita Electric Corporation, Kadoma city

1. Title of the invention

Turbine polisher

2. Claims

A turbine polisher, comprising: a connect pipe connecting to electric appliances such as electric cleaner, a turbine car rotated by a drawn air current, a turbine chamber having said turbine car therein and a suction nozzle installed at a portion thereof, and a rotatable wiping body driven by the axis of the turbine car, wherein the suction nozzle is in fluid communication with the space where the rotatable wiping body is mounted.

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

◎ 公開特許公報 (A)

昭55—54926

⑪ Int. Cl.<sup>2</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑫ 公開 昭和55年(1980)4月22日

A 47 L 9/04

6748—3B

発明の数 1

審査請求 未請求

11/16

6354—3B

(全 2 頁)

⑬ タービンポリッシャー

門真市大字門真1006番地松下電

器産業株式会社内

⑭ 特 願 昭53—129096

⑮ 出 願 人 松下電器産業株式会社

⑯ 出 願 昭53(1978)10月19日

門真市大字門真1006番地

⑰ 発 明 者 中澤敏一

⑱ 代 理 人 弁理士 中尾敏男 外 1 名

明 細 書

1. 発明の名称

タービンポリッシャー

2. 特許請求の範囲

電気掃除機等に接続する回転パイプと、吸引気流で回転するタービン車と、上記タービン車を内蔵し、一路に送込ノズルを設けたタービン車と、上記タービン車の軸により駆動される回転磨き体とを設け、上記送込ノズルを前記回転磨き体を配設した空間に通達させたことを特徴とするタービンポリッシャー。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、電気掃除機等の吸引装置に接続して使用するタービンポリッシャーに関するもので、タービン車により変換される機械力により、回転磨き体を回転させ、更に回転磨き体により掃き残された塵埃等を電気掃除機等の吸引力で吸引することを目的としている。

従来のタービンポリッシャーは、吸引された塵埃が流る通路が2つあり、一方はタービン車内を

通過する通路、他方は回転磨き体近辺を通じ、電機機を吸引する通路であり、この2つの通路の切替え調整により、塵埃を吸引する必要があり、面倒であるだけでなく、磨ききがる塵埃を吸引せよとすると空気流が2つに分かれるため、タービン車により変換される機械力が低下し、回転磨き体の回転数が低下するという欠点を有していた。

本発明は、上記従来の欠点を解消するもので、以下その実施例を図付図面にもとづいて説明する。図において、1はタービン車を内蔵したポリッシャーの本体、2は本体1の外周に固着したギヤ、3は電気掃除機延長管等の吸引装置に接続する回転パイプ、4はタービン車を内蔵したタービン車、5はタービン車4の一部に設けた送込ノズル、6はタービン車4の両側に延長したタービン車軸、7はタービン車軸7の両端に固着されたウォーム、8は各ウォーム8と連動するウォームホイール、9は各ウォームホイール9に固着された回転磨き体、他端にはそれぞれ回転磨き体11を兼設自在に固着している。そして、上記回転磨

を体11の回転方向は、それぞれ逆回転し、正面から見ると、内側に巻込むような回転方向にしている(図面に回転方向は省略)。この回転磨き体11を配設した空間13には前記した吸込ノズル8が通過している。13はタービン車8を軸支する軸受であり、ピストン等タービン室4に固着されている。又、回転磨き体11には、ブラシ、フェルト等を設ければよい。

上記構成において、接続パイプに排気機を接続すると、吸込ノズル8から空気が吸込まれ、上記吸込ノズル8で吸られた吸気がタービン車8に供給し、タービン車8を回転させた後、接続パイプを通り排気機に排気される。この時、タービン車8の回転は、タービン車8と固着したタービン車軸7から、ウォーム8により減速され、回転磨き体11に伝達される。この時、回転磨き体11の回転により、塵埃が、まき上げられるが、これら塵埃は回転磨き体11の回転方向が互いに内側を回転するため、本体1底面中央に寄せられ、本体1底面に設けられた吸込ノズル8により吸込ま

れる。この場合、使用しているタービン車8は、塵埃が通過しても使用できるダークタービンを使用しているため、塵埃で発生する塵埃が断絶しては、何ら支障なく回転力を出すことができる。

このように本発明によれば、排気機等を接続すれば、回転磨き体を配設した空間に吸込ノズルを通過させているから、簡単に床等の塵をヤブラッシングによる汚れ落としをしをしながら、同時にそこで発生した塵埃を吸引することができるという効果をjしているものであり、従来の問題を完全に払拭しているものである。

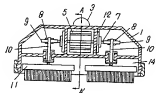
#### 4、図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例におけるタービンダクトの正面断面図、第2図は第1図のA-A線における断面図、第3図は第2図のB-B'線における断面図である。

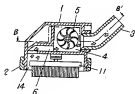
1……本体、2……接続パイプ、4……タービン室、5……タービン車、6……吸込ノズル、7……回転磨き体。

代理人の氏名 井関士 中 尾 敏 男 ほか1名

第 1 図



第 2 図



第 3 図

